

学校紹介

《《 ものづくりから人づくりへーいい汗をかこうー 》》

愛媛県立今治工業高等学校

創立80周年記念事業実行委員会

1 はじめに

本校は、昭和 17 年に今治市立工業学校として創立されました。現在、機械造船科、電気科、情報技術科、環境化学科、繊維デザイン科の 5 つの学科を持つ全日制工業高校で 15 学級、全校生徒 443 名が在籍しています。生徒は純朴で穏やかであり、落ち着いた学校生活を送っています。

また、今治平野を形成し、水資源を供給し、タオル製造業や染色業の発達を促すなど、今治に恵みをもたらしている蒼社川のほとりに位置し、豊かな自然、そして、温かい地域住民に囲まれた極めて教育環境に恵まれた学校です。長きにわたり地域の産業を支え、地域の期待に応える有為な専門的職業人を多数輩出してまいりました。



2 本校の教育活動

本校の校訓は、「真理の探究」「勤労の尊重」「責任の完遂」です。また、努力目標として、「ものづくりから人づくりへーいい汗をかこうー」を掲げています。これらの教育目標の下、生徒は自分自身の進路実現を目指して日々自分と向き合い、自分に厳しく熱心に学習や実習、部活動等に取り組んでいます。

生徒の進路志望は、約 7 割が就職です。その内の 6 割程度は、管内の企業への就職を希望しています。1 年生からキャリア教育を充実させ、「キャリアパスポート」の活用、企業技術者等による「匠の技教室」や「インターンシップ」など、計画的に職業的自立に向けた指導を行っています。また、資格取得にも意欲的に取り組み、毎年、各学科が設定している数値目標をほぼ達成しています。その結果、全員が希望する就職先へ合格しています。進学では、個別指導や少人数指導に力を入れており、四年制大学や各種専門学校などへの合格を実現させています。

約 9 割の生徒が部活動に加入し、日々熱心に活動しています。運動部では、全国大会出場を果たしているレスリング部、ボート部、陸上競技部や弓道部をはじめ多くの部員が心身を鍛えながら活動しています。生産部においては、毎年のように高校生ものづくりコンテスト等で全国大会への出場を果たしています。文化部では、10 年連続で全国高等学校総合文化祭への出場を果たしている写真部や、毎年、各種コンクールに多数の作品を出品し、賞を獲得している美術部など、多くの部が地域に密着した活動を行っています。

3 地域の期待に応えて

本校は、機械系と化学系の学科からスタートしました。地域の産業界等からの要望に応えるかたちで、繊維系(S23～)、電気系(S35～)、デザイン系(S55～)、情報系(H4～)と学びの分野を増やしてきました。学科の改編や名称変更など、いろいろ変遷はありましたが、地域の期待に応える教育という伝統は今も引き継がれています。平成 28 年には、地域の特色ある産業である造船の分野で活躍する人材を育成するため、「機械科」を「機械造船科」に再編し、造船教育に取り組んでいます。実習棟が新設され、造船会社の技術者からの直接的な技術指導や愛媛大学や広島大学と連携した教育を行うなど、新たな歴史が刻まれています。現在、3 年生には、「機械造船科」となって初めての女子生徒が在籍しており、高度な技術を学んでいます。この様子は、NHK の番組等でもたびたび紹介されました。

4 創立 80 周年記念事業

80 周年記念統一テーマとシンボルマークは、全校生徒に募集した中から選考されました。

記念テーマは『躍進の時 未来につなぐ今工魂』で、「80 年という歴史に思いを馳せるとともに、更なる高みを目指していきたい」という思いが込められています。

シンボルマークは、校章にもある歯車をシンボルの中心に、「今工」の頭文字と工業や産業といった意味である「Industry」の頭文字を合わせた「I」の文字、本校のイメージカラーであるえんじ色のリボン、各科のイメージカラーで書かれた「80th」の文字を合わせたものです。創立 80 周年という特別な節目を迎え、本校全体で地域、ひいては社会の工業・産業へのさらなる貢献を目指すことを願い作成しました。



さらに、シンボルマークを基にデザインされたタオルを繊維デザイン科の生徒が制作しました。

「IMAKO」の文字を各科のイメージとして、機械造船科は歯車といかり、電気科は波形、情報技術科は基盤の模様、環境化学科は化学の構造式、繊維デザイン科は筆と布の組織を描いています。



また、今年度初めて、記念事業の一つとしてドローンによる「人文字撮影」を行いました。生徒と教



職員の 510 名で、色画用紙を用いて大きなシンボルマークをグラウンドに描くことができました。新型コロナウイルス感染症第 6 波の影響がまだ残っていた時期と重なりましたが、感染対策を十分にとったうえで実施しました。参加した全員にとって、よい記念になったことでしょう。

第 71 回の記念運動会では、例年は行っていない「全校応援」を行う予定でいます。生徒と教職員が一致団結し、

運動会が大いに盛り上がることを期待しています。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| ◎ 全校集合写真(ドローン撮影) | 令和 4 年 4 月 18 日 |
| ◎ 記念招待試合 野球部 | 令和 4 年 5 月 20 日 |
| ◎ 記念招待試合 ソフトテニス部 | 令和 4 年 5 月 20 日 |
| ◎ 記念運動会 | 令和 4 年 9 月 29 日 実施予定 |
| ◎ 記念式・講演会 | 令和 4 年 11 月 2 日 実施予定 |
| ◎ 記念文化祭 | 令和 4 年 11 月 2 日・3 日 実施予定 |

(令和 4 年 8 月末現在)

5 おわりに

今治工業高等学校は、尊い命が奪われた先の戦争の最中に、地域の期待を担って誕生し、地域の復興・発展に貢献してきました。すでに、1 万 9 千余人の卒業生(定時制(H20 廃止)を含む)を世に送り出してきた本校の使命は、昔も今も変わりません。

創立 31 年目に復刊された校誌『蒼社』の巻頭言で当時の校長先生は、「本校の歴史には激しい時代の流れを乗り越えてきたきびしいものがある。創立後、各十年を区切りとする発展の歴史である。……創設・戦災・敗戦・復興・改築・増築・技術革新の波と、苦難の道を歩みながら……それでも、新しい時代の要請に応じて、飛躍・発展・成長を続けた。施設設備も充実した。伝統とゆるぎない校風をつくって来た。(以下、省略)」と書いておられます。50 年前に書かれたものですが、これこそが本校の存在意義ではないかと思えます。

少子化など、これまでにない社会構造の変化で県立高校の再編計画案が発表され、本校も存在意義を改めて問われる時期に来ています。同窓生をはじめ地域の皆様方・関係の皆様方の温かい御理解と御支援に深く感謝し、これからの時代における本校の使命を果たしていきたいと思えます。

本校ホームページもぜひ御覧ください。 <https://imabari-th.esnet.ed.jp/>